慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	香田芳樹教授略歴・研究業績
Sub Title	Biographical resume & list of publication of Professor Yoshiki Koda
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2023
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.125, (2023. 12) ,p.[i]- xvii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	香田芳樹教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01250001--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

香田芳樹教授　略歴・研究業績

略歴

履歴

一九五九年三月二七日　大阪府箕面市に生まれる
一九七八―一九八二年　信州大学人文学部ドイツ文学科
一九八二―一九八五年　金沢大学大学院文学研究科修士課程ドイツ文学専攻
一九八五―一九九四年　広島大学大学院文学研究科博士課程後期ドイツ語学ドイツ文学専攻
一九八八―一九九一年　スイス政府給付奨学生としてフライブルク大学に留学
一九九一―一九九四年　ドイツ学術交流会（ＤＡＡＤ）の奨学生としてテュービンゲン大学に留学
一九九六―二〇〇三年　大東文化大学文学部教育学科専任講師
一九九九―二〇〇〇年　アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の特別研究員としてベルリン自由大学に研究留学
二〇〇三―二〇〇五年　大東文化大学文学部教育学科助教授
二〇〇五―二〇〇七年　大東文化大学外国語学部英語学科助教授
二〇〇七―二〇二三年　慶應義塾大学文学部教授（二〇〇九年より大学院文学研究科委員）

学位

一九九四年三月七日　博士（文学）　広島大学
一九九七年一一月一〇日　Ph. D. フライブルク大学（スイス）

非常勤講師歴

一九九四―一九九六年　広島修道大学人文学部（ドイツ語）
二〇〇一―二〇二〇年　東京大学教養学部（ドイツ語）
二〇〇四年　東京大学大学院人文社会系研究科（ドイツ語ドイツ文学特殊講義）集中講義
二〇〇五―二〇〇七年　慶應義塾大学文学部（ドイツ文化史・ドイツ語学研究）
二〇〇五―二〇〇八年　早稲田大学第二文学部（思想・宗教系演習）
二〇〇八年　京都大学大学院文学研究科（ドイツ語学ドイツ文学特殊講義）集中講義
二〇一六―二〇一七年　学習院大学文学部（ドイツ文学史）
二〇一七年　九州大学大学院文学研究科（ドイツ文学特殊講義）集中講義

学会及び社会における活動

一九八九―現在　日本独文学会
一九九七―二〇〇五年　日本デューイ学会

一九九八―二〇〇六年　大学教育学会
二〇〇〇―二〇〇二年　日本独文学会文化ゼミナール実行委員
二〇〇三―二〇〇四年　日本独文学会機関誌編集委員
二〇〇七―二〇〇八年　日本独文学会アジア・ゲルマニスト会議実行委員
二〇〇八―現在　日本フンボルト協会理事（二〇二三年より常務理事）
二〇〇九年―現在　西洋中世学会
二〇一一―二〇一五年　西洋中世学会機関誌編集委員
二〇一四―二〇一六年　科学研究費審査委員（基盤研究C）
二〇一四―二〇一六年　日本独文学会機関誌編集委員副編集長
二〇一七年―二〇一九年　日本独文学会文化ゼミナール実行委員長
二〇一九―二〇二三年　日本独文学会理事（機関誌担当、研究叢書担当）
二〇二一年―現在　世界文学会

競争的獲得資金

一九九九―二〇〇〇年
アレクサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金、『中高ドイツ語説教集 Paradisus anime intelligentis の文献学的研究』 46,800 ドイツマルク
二〇〇四―二〇〇六年
科学研究費補助金（基盤研究C）『ヨーロッパ中世神秘思想の歴史的・思想史的研究』 2,700,000 円

二〇〇九―二〇一一年

科学研究費補助金（基盤研究C）『ハビトゥスの歴史的研究』 2,730,000円

二〇一〇年

科学研究費補助金（研究成果公開促進費）『マイスター・エックハルト　生涯と著作』 2,500,000円

二〇二一―二〇二四年

科学研究費補助金（基盤研究C）『ハビトゥスの歴史的・文化史的考察』 1,690,000円

研究業績

著書

『マイスター・エックハルト　生涯と著作』、創文社　二〇一一年、四三五頁。
『魂深き人びと　―西欧中世からの反骨精神』、青灯社　二〇一七年、二七二頁。

翻訳

マクデブルクのメヒティルト『神性の流れる光』、創文社　一九九九年、三八六頁。
『中世思想原典集成』第一六巻（ドイツ神秘思想）（木村直司監修）、平凡社　二〇〇一年、①作者未詳『ザンクト・トルートペルトの雅歌』二三―三九頁、②アウクスブルクのダーヴィト『祈りの七つの階梯』六一―八四頁、③同『主の祈り』八五―一〇六頁、④レーゲンスブルクのベルトルト『説教二　五つのタラントンについて』一〇七―一三五頁、⑤作者未詳『シュヴァルツヴァルト説教集』一三七―一四九頁、⑥グリュンディヒのエックハルト『能動知性と可能知性について』四三一―四五一頁、⑦リンダウのマルクヴァルト『十戒の書』七二五―七四二頁、⑧同『ドイツ語説教集』七四三―七六〇頁。

共著・編著

中世ヒューマニズムと大学教育、『ヒューマニズムの変遷と展望』（竹田宏編）、未來社　一九九七年収録、二九－五一頁。

マイスター・エックハルト『ドイツ語説教集』（上田閑照訳、香田芳樹解説）、『ドイツ神秘主義叢書』（上田閑照・川﨑幸夫監修）第二巻、創文社　二〇〇六年、訳註・解説Ⅰ「エックハルトが出会った人々」、解説Ⅱ「エックハルトの銀河系」担当。

真理を語る真理―マイスター・エックハルトの神秘的聖書解釈―、『イスラーム哲学とキリスト教中世』第三巻（神秘哲学）、（竹下政孝・山内志朗編）、岩波書店　二〇一二年、三〇五－三三〇頁。

Köln-Toulouse-Avignon. Die Verurteilung Meister Eckharts im Kontext der thomistischen Tradition in Südfrankreich. In: Mystik, Recht und Freiheit. Religiöse Erfahrung und kirchliche Institutionen im Spätmittelalter, hrsg. von Dietmar Mieth und Britta Müller-Schauenburg, Stuttgart (Kohlhammer) 2012, pp. 96-122.

„Wan unseren herren gelüstet, daz er in dem und mit dem menschen wone“ Reflektion über die ‚Reden der Unterweisung‘ Meister Eckharts und die Stadtgeschichte von Erfurt. In: Meister Eckharts Erfurter „Reden“ in ihrem Kontext, Stuttgart (Kohlhammer) 2013, pp. 41-64.

〈超〉人化する人間の未来、『〈新しい人間〉の設計図　ドイツ文学・哲学から読む』（香田芳樹編）、青灯社　二〇一五年、九－二三頁。

「わたしは若木のような新たな姿となって星々にのぼっていく」―古代から中世にいたる「死と再生」の形象について、『〈新しい人間〉の設計図　ドイツ文学・哲学から読む』（香田芳樹編）、青灯社　二〇一五年、二六－六二頁。

弾む御言（みことば）、差し込める光　―中世ドイツの宗教と世俗文学に現れた光をめぐる言説、『光の形而上学　―知る

ことの根源を辿って』（山内志朗編）、慶應義塾大学出版会　二〇一八年、二一一－二三二頁。

Durch ehrlose Ehe dem Untergang geweiht. Eine mythologemische Analyse des „Iwein“ Hartmanns von Aue und der altjapanischen Predigtballade „Oguri Hangan“. In: „Japanisch-deutsche Gespräche über Fremdheit im Mittelalter: Interkulturelle und interdisziplinäre Forschungen in Ost und West, hrsg. von Albrecht Classen/ Manshu Ide, Tübingen (Stauffenburg) 2018, pp. 199-214.

老いて花さく、『晩年のスタイル　―老いを書く、老いて書く』（磯崎康太郎・香田芳樹編）、松籟社　二〇二〇年、一一－三五頁。

「よちよち歩きの時分から柵のところまで」　―ヨーロッパ古代と中世のおける老年描写、『晩年のスタイル　―老いを書く、老いて書く』（磯崎康太郎・香田芳樹編）、松籟社　二〇二〇年、三七－六七頁。

Religiöse Erfahrung und die Dichtung. In: Religiöse Erfahrung - Literarischer Habitus, hrsg. von Yoshiki Koda, München (iudicium) 2020, pp. 11-16.

„Homo sacer“ im östlichen und westlichen religiösen Kontext: „Hiob“, „Oguri Hangan“ und „Kugai Jodo“. In: Religiöse Erfahrung - Literarischer Habitus, hrsg. von Yoshiki Koda, München (iudicium) 2020, pp. 55-73.

Die Entstehung des Habitus im antiken Griechenland und dessen Wiederentdeckung in Frankreich im 19. Jahrhundert. In: Religiöse Erfahrung - Literarischer Habitus, hrsg. von Yoshiki Koda, München (iudicium) 2020, pp. 193-204.

天上の旋律、地上の象徴　―暦を巡る思考の冒険、『さまざまな一年　―近現代ドイツ文学における暦の詩学』（金志成編）、松籟社　二〇二一年、一九－四九頁。

Rhetorik und Parrhesia. Zum Offenbarungsmodus von Geheimlehren in Antike und Mittelalter. In: „Darstellung und Geheimnis in Mittelalter und früher Neuzeit“, hrsg. von Jutta Eming/ Volkhard Wels, Wiesbaden (Harrassowitz Verlag) 2021, pp. 231-248.

学術論文

Das Wortfeld der Analogielehre Meister Eckharts. – glîchnisse, bilde und bilden. 『独文研究室報』第三号（金沢大学大学院）（一九八六）、四三－九一頁。

エックハルト文学における開かれた構造、『Treff-Punkt-Sprache』第四号（広島大学大学院）（一九八六）、六〇－七五頁。

マイスター・エックハルトの神秘思想における科学性について、『広島ドイツ文学』第二号（広島独文学会）（一九八七）、五三－七六頁。

マイスター・エックハルトにおける存在と認識の布置 ―前期『パリ討論集』を中心に―、『Treff-Punkt-Sprache』第六号（一九八七）、四〇－七〇頁。

Sprechakte in der spätmittelalterlichen Liebesdichtung、『広島ドイツ文学』第七号（一九九二）、一－一六頁。

Heinrich Wittenwiler の『指輪』と中世後期の唯名論的思潮、『ドイツ文学』（日本独文学会編）第八九号（一九九二）、七八－八八頁。

Die Gottesgeburt in der Apposition. Untersuchungen zum sprachlichen Eigenwert der Mystik Meister Eckharts、『ドイツ文学論集』（日本独文学会中四国支部）第二七号（一九九四）、八九－九八頁。

Untersuchungen zur Erfurter Schulordnung vom Jahre 1282. In: Zeitschrift für Kulturbegegnung、第四号（一九九六）、九二－一〇四頁。

Mystische Lebenslehre zwischen Kloster und Stadt. Meister Eckharts «Reden der Unterweisung» und die spätmittelalterliche Lebenswirklichkeit. In: Mittelalterliche Literatur im Lebenszusammenhang, hrsg. von Conrad Eckart Lutz, Freiburg/ Schweiz 1997, pp. 225-264.

「この者は真理に耳をかさず、絵空事に聴き痴れ…」 ―マイスター・エックハルトに対する異端宣告勅書『主の耕地にて』の法制史的・思想史的考察―、『大東文化大学紀要』第三五号（一九九七）、二〇三―二二三頁。

歴史・幻視・ジェンダー ―中世ドイツの終末論とビンゲンのヒルデガルトの黙示文学―、『人文科学』（大東文化大学人文科学研究所編）第五号（二〇〇〇）、五三―七七頁。

アンチキリスト・カタリ・托鉢修道士 ―女性神秘家のみた終末的世界―、『人文科学』第七号（二〇〇二）、五七―七八頁。

Krankheit und Vision. Mittelalterliche Frauenliteratur als Medium religiöser Konflikte, Neue Beiträge zur Germanistik, Bd. 1 (2002), pp. 151-165.

西欧思想における習慣と身体、科学研究費補助金（A）（一）研究報告書『文学表現と身体―ドイツ文学の場合』（二〇〇三）、三一―四二頁。

20世紀前半の神秘思想論、『大東文化大学紀要』第四二号（二〇〇四）、一二三―一三〇頁。

「主は人間のなかで、人間とともに住まうことを喜び給う」―マイスター・エックハルトの思想形成と都市市民社会―、『ドイツにおける神秘思想の展開』（日本独文学会研究叢書）第三五号（二〇〇五）、一七―三四頁。

神秘思想の宗教学的基礎づけの試み、『大東文化大学紀要』第四四号（二〇〇六）、一五一―一六三頁。

マイスター・エックハルトとシュトラースブルクのドミニコ会、『大東文化大学紀要』第四五号（二〇〇七）、一三―二五頁。

ヨーロッパ古代から中世における身体観とハビトゥス（習慣）の変遷、『藝文研究』第九三巻（二〇〇七）、六一―八一頁。

Schmerzempfindlichkeit und Körperwahrnehmung in den klösterlichen Gnadenzetteln und bei Margaretha Ebner. In: „Kulturfaktor Schmerz“, hrsg. von Y. Hirano/Ch. Ivanović, Würzburg (Königshausen und Neumann), 2008, pp. 85-98.

革命とハビトゥス ―メーヌ・ド・ビランの『習慣論』とフランス・スピリチュアリズムの伝統、『19世紀学研究』第一号（二〇〇八）、六四―七六頁。

Synthese von Nähe und Ferne. Kulturhistorische Überlegungen zu drei Modellen der Gastfreundschaft. In: Figuren des Transgressiven,

hrsg. von Kanichiro Omiya, München (iudicium) 2009, pp. 235-251.

エクフラーシス　―中世ヨーロッパ文学における絵のない絵本―、『藝文研究』第九八巻（二〇一〇）、一四四－一六一頁。

美徳の装い　―ドイツ中世の教育文学におけるイメージとハビトゥス―、『西洋中世研究』（西洋中世学会編）、第三号（二〇一一）、五一－六五頁。

Japanese Philosopher Tetsuro Watsuji (1889-1960). His Cultural Anthropology and His Buddhist Thinking. In: Buddhism and Buddhist Philosophy in World Literature』, edd. Pornsan Watanagura/Heinrich Detering, Chulalongkorn University UP (Thailand), pp. 39-52.

遊戯衝動とハビトゥス　―シラーの美学論によるカント的義務の克服、『藝文研究』第一〇五巻（二〇一三）、一－二一頁。

Synderesis und Scham. Zur Genese des kognitiven und affektiven Gewissens im abendländischen Mittelalter. In: Neue Beiträge zur Germanistik. Bd. 14（『ドイツ文学』第一五一号）, pp. 54-74.

Nihilismus und Utopismus. Die Reichweite der antiken und mittelalterlichen Endzeitmythologie in das Denken des 20. Jahrhunderts、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第四七号、三三－四七頁。

特集「詩的正義」への導入、Neue Beiträge zur Germanistik, Bd. 14（『ドイツ文学』第一五二号　二〇一六）、一－七頁。

「正義の女神は苦しむものに秤を傾ける」　―古代・中世ヨーロッパ文学に描かれた配分的正義と交換的正義、Neue Beiträge zur Germanistik, Bd. 14（『ドイツ文学』第一五二号　二〇一六）、八－二三頁。

特集「黙示録とユートピア」への導入、Neue Beiträge zur Germanistik, Bd. 16（『ドイツ文学』第一五四号　二〇一六）、一－一七頁。

Uneigentliche Rede der Liebenden in der europäischen Literaturtradition, Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz. Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo, München (iudicium) 2019, pp.38-49.

Tugend und Glück : zum Habituskonzept bei Aristoteles und Meister Eckhart、『藝文研究』第一一一巻（二〇一八）識名章喜教授退職記念号、八〇－九五頁。

Sapienza, amore e virtute ―『神曲』にあらわれたスコラ哲学的主題について、『世界文学』第一三五号（特集ダンテ）（二〇一二）、二八－三五頁。

家族の習俗から社会の法へ ―ヘーゲル『法の哲学』における市民的ハビトゥスの構想、『藝文研究』第一二四巻（二〇二三）、三五－五五頁。

その他

書評：Hee-Sung Keel, Meister Eckhart. An Asian Perspective. Louvain a. o. (Eerdmans) 2007. 319 p. (Louvain Theological & Pastoral Monographs 36), ISBN: 0-8028-6255-6. In: Theologische Revue, 108-8345 (2012), Sp. 518-520.

書評：C. Stephen Jaeger, Enchantment. On Charisma and the Sublime in the Arts of the West. Philadelphia (University of Pennsylvania UP) 2012, 424 p., ISBN: 978-8122-4329-1. In: Arbitrium (Zeitschrift für Rezensionen zur germanistischen Literaturwissenschaft), Vol. 31 (2013), pp. 154-161.

事典項目『中世ドイツ文学』、『キリスト教文化事典』（キリスト教文化事典編集委員会編）丸善出版　二〇二二年、一五〇－一五一頁。

学会研究発表

エックハルトにおける „bilden“、日本独文学会秋季大会　於金沢大学　一九八四年一〇月

Meister Eckhart 研究の新しい動向、日本独文学会春季大会　於学習院大学　一九九三年五月

Die mystische Theologie Meister Eckharts und die Stadtgeschichte von Erfurt, bei Symposium „Seminaire de 3è cycle 1994“, Lausanne,

Feb. 1994.

文法教師フーゴーの反論　―ヨーロッパ中世における大学教育と倫理教育の葛藤について、日本独文学会春季大会　於慶應義塾大学　一九九七年五月

Abgeschiedenheit und Habitus. Über den Entstehungsprozeß der Leitgedanken Meister Eckharts, Société Internationale pour l'Étude de la Philosophie Médiévale, Erfurt, 25. 8. 1997.

中世の習慣論　―ハビトゥスの復権と個の覚醒、日本独文学会秋季大会　於信州大学　二〇〇一年一〇月

「主は人間のなかで、人間とともに住まうことを喜び給う」―マイスター・エックハルトの思想形成と都市エルフルト、日本独文学会秋季大会　於北海道大学　二〇〇四年一〇月

出会いと闘争の場としての神秘思想、国際宗教学宗教史会議第一九回世界大会　於高輪プリンスホテル　二〇〇五年三月

Schmerzempfindlichkeit und Körperwahrnehmung im Mittelalter", Humboldt-Kolleg „Kulturfaktor Schmerz", 於東京大学・フンボルト財団　二〇〇五年九月

Nihilismus und Utopismus. Die Reichweite der antiken und mittelalterlichen Endzeitmythologie in das Denken des 20. Jahrhunderts, beim 48. Kulturseminar: Tateshina-Symposion „Endzeit-Zeitenden", Art Land Hotel Tateshina 二〇〇六年三月二〇日

Synthese von Nähe und Ferne – Kulturhistorische. Überlegungen zu drei Modellen der Gastfreundschaft im europäischen Mittelalter, beim 49. Kulturseminar: Tateshina-Symposion „Die Figur des Gastes - weder Feind noch Freund", Art Land Hotel Tateshina 二〇〇七年三月二〇日

Synderesis: ein Wissen vor der Erbsünde. Zur Genealogie kognitiver und affektiver Moralwerte im europäischen Mittelalter, Humboldt-Kolleg „Form des Wissens", 於立教大学・フンボルト財団、二〇〇八年三月一五日

パネルディスカッション「魂の根底をめぐって―エックハルト、タウラー、リュースブルク」指定討論者、日本宗教学会第六七回学術大会　於筑波大学　二〇〇八年九月一四日

Die Dominikaner-Franziskaner-Konstellation im Prozess Meister Eckharts, Internationale Meister-Eckhart-Tagung „Mystik, Recht und Freiheit", Akademie der Diözese Mainz, 11. 9. 2010.

Überwindung der zweiten Natur. Zwei Rezeptionsmodelle der Aristotelischen Gewohnheitslehre in der mittelalterlichen Philosophie、慶應―学振国際シンポジウム『ヒューマン・プロジェクト』„Fragwürdigkeit Mensch"、於慶應義塾大学　二〇一〇年一一月五日

Abgrund und Einöde, Keio-JSPS-Kolloquium „Diskurse der Heterotopien in der mittelalterlichen Literatur Europas", Keio-University, 7. 11. 2010.

«unseren herren gelüstet, daz er in dem und mit dem menschen wone». Reflexionen über die Reden der Unterscheidung Meister Eckharts und die Stadtgeschichte von Erfurt, Internationale Meister-Eckhart-Tagung „Meister Eckharts Reden für die Stadt", Augustinerkloster zu Erfurt 15. 4. 2011.

„Musst du dein Leben aendern?" Einige Gedanken zur Idee der Menschenreform von der mittelalterlichen Mystik bis zur Gegenwartsphilosophie. Gastvortrag an der Universität Freiburg/ Schweiz, 19. 4. 2011.

Wütende Frauen – weinende Männer. Zur Inszenierung der negativen Gefühle in der mittelalterlichen mystischen Literatur, Keio-JSPS-Kolloquium „Emotionen im Mittelalter", Keio-University, 29. 1. 2012.

„Die Hoffnung ist aber im Zorn." —Emotionen in der antiken und mittelalterlichen Literatur des Abendlandes. Asiatische Germanistentagung 2012 in Beijing. „Interlingualität, Interkulturalität, Interdisziplinarität. Grenzerweiterungen der Germanistik". Beijing Foreign University. 22.8.2012.

「わたしは若木のような新たな姿となって星々にのぼっていく」―古代から中世にいたる「死と再生」の形象について、日本独文学会秋季研究発表大会・シンポジウム『再生―進歩―生存。ドイツ思想史における「超人間化」』、於中央大学、二〇一二年一〇月一四日

Erfahrungshorizonte der ewig wiederkehrenden Zeit von der Antike bis zum Spätmittelalter, Keio-JSPS-Kolloquium „Erfahrung, Phantasie und Dichtung in der mittelalterlichen Literatur“, Keio-University, 23. 2. 2013.

Traum, Zauber, Wahnsinn: Das Charismatische der Frauen in der japanischen Literatur des Mittelalters, Keio-JSPS-Kolloquium „Von der Peripherie ins Zentrum. Weibliche Figuren in der mittelalterlichen Literatur in Deutschland und Japan“, Keio-University, 5. 7. 2013.

中世女性神秘家の見た世界の終わり、九州大学科学研究費基盤研究B　黙示録研究会、於九州大学、二〇一四年九月一三日

「正義の女神は堪え忍ぶものに秤を傾ける」—ドイツ中世叙事詩に描かれた復讐と法、日本独文学会秋季研究発表大会・シンポジウム『もっと正義を！　—詩的道徳を希求する文学の格闘』於京都府立大学、二〇一四年一〇月一一日

Durch ehrlose Ehe dem Untergang geweiht. Eine mythologemische Analyse des „Iwein“ Hartmanns von Aue und der altjapanischen Predigtballade „Oguri Hangan“, Internationales Symposium der Universität Rikkyo: „Japanisch-deutsche Gespräche über Fremdheit im Mittelalter“, 1. 10. 2016.

「よちよち歩きの時分から柵のところまで」　—中世のおける老年描写、日本独文学会秋季研究発表大会・シンポジウム『晩年のスタイル』於広島大学、二〇一七年一〇月一日

„Homo sacer“ im östlichen und westlichen religiösen Kontext, 60. Kulturseminar: Tateshina-Symposion „Religiöse Erfahrung“, Resort Hotel Tateshina 二〇一八年三月一二日

Rhetorik und Parrhesia. Zwei Arten der religiösen Kommunikation, Internationale und interdisziplinäre Tagung im Rahmen des Sonderforschungsbereich 980 „Episteme in Bewegung“. „Darstellung und Geheimnis in Mittelalter und früher Neuzeit“, Freie Universität Berlin, 27. 9 - 29. 9. 2018.

Uneigentliche Rede der Liebenden in der europäischen Literaturtradition, Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo: „Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz“. Hokkai-Gakuen Universität (Sapporo) 二〇一九年八月二六日

Sapienza, amore e virtute　—『神曲』にあらわれたスコラ哲学的主題について、世界文学会ダンテ逝去七〇〇周年記念シン

ポジウム『ダンテと世界文学』、オンライン（東海大学）二〇二一年一〇月一〇日

三つのモナド論　―第二次世界大戦前夜の個我と国家の問題について、日本独文学会秋季研究発表大会・シンポジウム『カリスマ教師とその弟子たち　―戦間期ドイツにおける人文科学の再生と変容』於京都府立大学、二〇二三年一〇月一五日